

## 障害不稔発生年次における刈り取り適期の目安

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

平成15年は7月の異常低温により障害不稔が多発した。不稔が多発した場合、従来の刈り取り適期の判定方法（出穂後日数，積算気温，籾の黄化程度など）の利用が不稔籾の混在により困難である。平成15年及び平成5年の玄米品質調査結果を解析したところ，障害不稔多発年次に利用できる刈り取り適期の目安が得られたので，参考資料とする。

### 2 参考資料

1) 障害不稔が発生した場合，稔実籾数が減少することにより，少ない出穂後積算気温で刈り取り適期に達する。平成5年及び平成15年の登熟期間における玄米品質調査より得られた，積算気温による刈り取りの適期の目安は下表のとおりである。

表1 障害不稔発生時の刈り取り適期の積算気温の目安

不稔歩合	多 60%以上	中 60～30%	少 30～10%	(参考) 平年
出穂後積算気温	800	900	940	1000

### 3 利活用の留意点

- 1) 正確な刈り取り適期の判定は，稔実籾の黄化程度や籾水分等を考慮して行う。
- 2) ササニシキは被害粒等の発生が多くなる傾向なので，特に借り遅れに注意する。

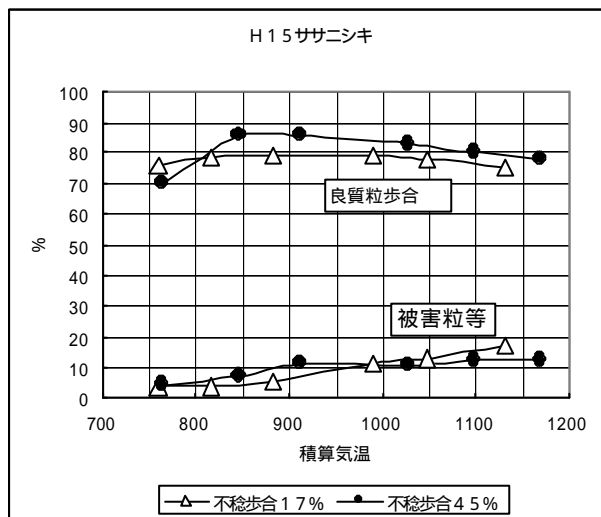
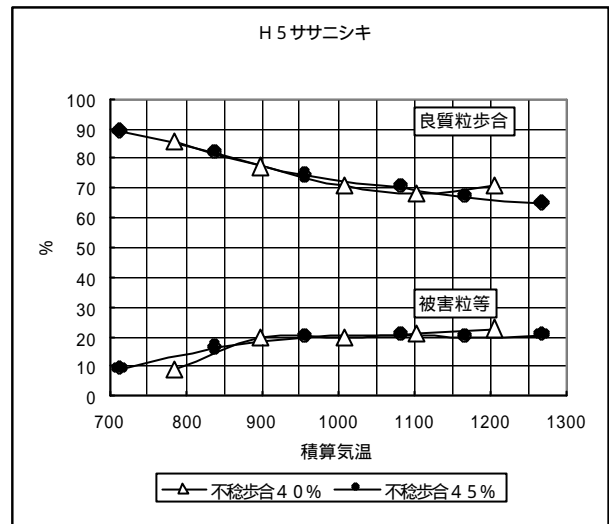
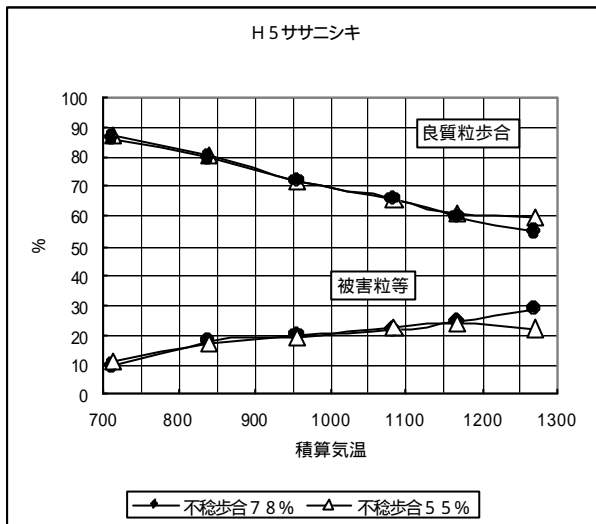
(問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5101)

平成16年4月作成

#### 4 背景となった主要な試験研究

1) 水稲作況試験 平成15年, 商品性の高い宮城米の高水準安定生産技術の確立 平成5年

2) 参考データ



測定方法：S社製 RS1000(H5), RS2000(H15)  
刈取適期の基準

整粒歩合：宮城県目標値 80%以上  
被害粒等：農産物検査基準の被害粒等の  
合計15%未満

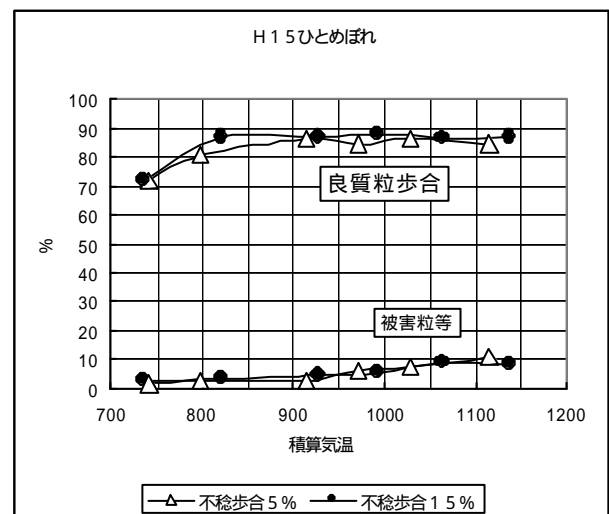
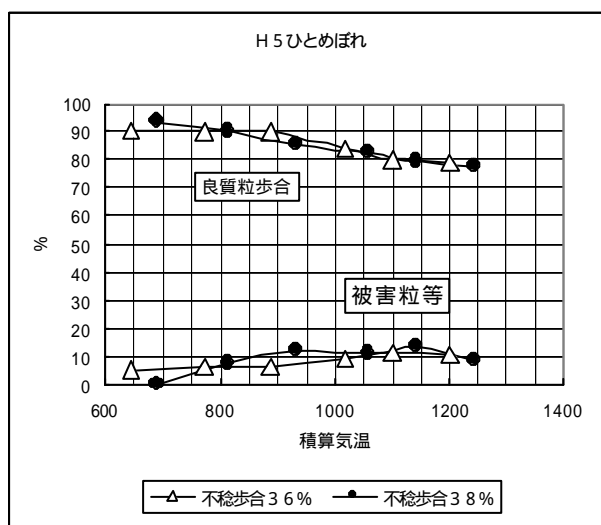


図1 積算気温と玄米品質

3) 発表論文等

なし